

## 平成26年度高病原性鳥インフルエンザ防疫演習が開催されました

県では、高病原性鳥インフルエンザ等の発生に備えて、現地対策班を構成する農林事務所、家畜保健衛生所と市町村、保健所、警察署との連携を更に強化するため各地域で防疫演習を開催しました。

今年度の防疫演習は、昨年度の総合討議でいただいたご意見やアンケートの回答を踏まえ、次のような内容を行いました。

### 演習内容

口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザの症状と発生状況について  
特定家畜伝染病防疫作業マニュアルの改訂について  
高病原性鳥インフルエンザ机上シミュレーション  
鶏、牛、豚の殺処分方法について  
通行制限並びに消毒ポイントでの安全な車両誘導方法について  
鳥インフルエンザウイルスからの感染予防と熱中症対策について  
体験型シミュレーション  
防護服の着脱、消毒装置の組み立てを含む動力噴霧器を使った消毒作業  
総合討議、アンケート調査

### 1 開催地域・日程等

開催地域	日程	開催場所	参加者
県北・県央地域			
県北農林事務所 県央農林事務所 県北家畜保健衛生所	10月1日(水)	小美玉市小川運動公園 (小美玉市与沢 532-1)	約130名
鹿行地域			
鹿行農林事務所 鹿行家畜保健衛生所	10月8日(水)	鉾田合同庁舎 (鉾田市鉾田 1367-3)	約70名
県南地域			
県南農林事務所 県南家畜保健衛生所	10月16日(木)	土浦合同庁舎 (土浦市真鍋 5-17-26)	約70名
県西地域			
県西農林事務所 県西家畜保健衛生所	10月16日(木)	筑西市明野公民館 (筑西市海老ヶ島 2120-7)	約120名

### 2 防疫演習概要

#### 机上シミュレーション

各地域とも発生を想定し、防疫計画、準備、防疫措置の実施方法及び地域連絡会議の概要等をスライドを用いて家畜保健衛生所職員から説明しました。

#### 体験型シミュレーション

防護服の着脱においては、防疫作業者が防護服をスムーズに着衣し、ウイルスに汚染されることがないように脱衣できる方法を検討し、防疫作業者が見てわかる防護服の着脱方法のパネル（写真1）を作成しました。

また、昨年体験のしたいという要望が多かった防護服の着脱については、なるべく多くの市町村、農林事務所及び関係者の方に体験していただき、さらに動力噴霧器による車両消毒等の体験も行いました。

### 総合討論

県西地域でお招きした動物衛生研究所の上田先生からは、

- ・防疫計画を立てる上で、各農場の配置人員、使用器材等の数量の算出を行うこと。
- ・大規模発生の場合の人的支援体制の構築を行っておくこと。
- ・防護服の着用、N95 マスクの装着で、作業者は動きが制限されるので、防護服の着脱だけでなく、着用した状態で作業を体験することも必要。
- ・演習に参加した職員も数年後には異動となり、新しい職員が担当となることから、毎年演習を行うことが重要。

等の御意見をいただきました。

また、他の地域の演習参加者からも様々な意見や要望等がありました。

- ・ゴーグルが曇ってしまうので、曇り止めの準備が必要。
- ・グループ毎の作業を具体的な写真や例で説明をつけて欲しい。
- ・防護服の着脱について、外側防護服を脱いだ後、消毒用アルコールで手袋を消毒する行程をいれること。
- ・消毒ポイントでの車両の誘導、消毒作業は第一に安全を確保した上で行うこと。



防疫演習は、実際の防疫作業について体験する場を設けることで、現地対策班の対応能力、関係機関の連携強化を図ることを目的に行われるものです。

本年4月、熊本県で、我が国で3年ぶりにH5N8亜型ウイルスによる高病原性鳥インフルエンザが発生した際、熊本県及び関係市町村、農協等の夜を徹した防疫作業により、病性決定後72時間以内に発生農場の防疫措置が終了しました。本事例は、畜主の早期通報、県をはじめとする関係機関の迅速・的確な初動対応によりまん延防止、早期終息が図られたものと評価されています。

我々も万一の発生時には、迅速・的確な初動体制を整え、被害を最小限に抑えられるように、農林事務所と協力し、定期的に防疫演習を実施して参ります。

写真1 パネル

【鹿行地域で開催した防疫演習】



机上訓練



体験型シミュレーション



体験型シミュレーション



体験型シミュレーション



講演（鉾田警察署）



講演（鉾田保健所）



